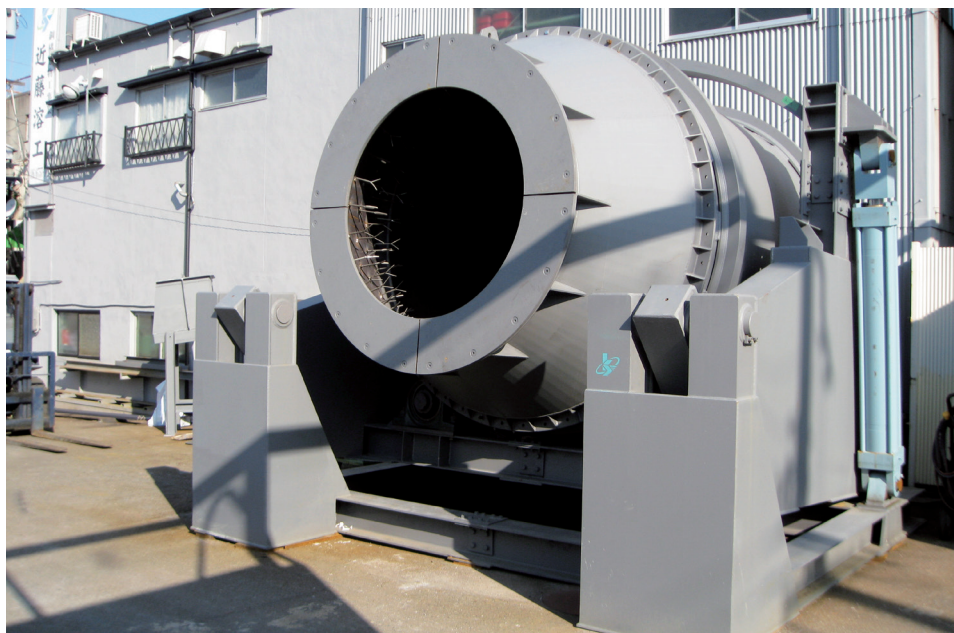


株式会社 近藤溶工

高精度なプラント関連
金物を製造する職人集団

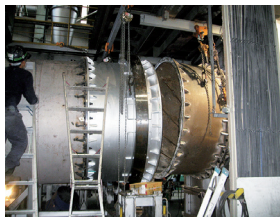
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンライン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



工業炉本体用の製缶部品

業務
業内 職人の技術力と
機動力が武器

工業炉やプラント用部材の製缶作業を手がけている。製缶とは、鉄材を切断、溶接加工し、立体的な金属製品を作り上げること。設備により形やサイズが異なるため、仕事はすべて受注生産。製造マニュアルは存在しないが、創業当時から受け継いできた職人技で、高レベルなもののづくりを実現している。品質や納期などの顧客要望を踏まえ、図面の補足や修正を行い最適な金属部材を製造し、工場への搬入と据付も担う。また、プラントの補修改造工事なども手がけるなど、50年間培ってきた技術力と機動力を武器に、顧客の高い要求に応えている。



工業炉改造工事の様子

強み
近隣の技術者との連携で
高レベルなもののづくりを実現

溶接や金属加工に使う機材などの「ハイテクノロジー」と、先代から受け継いできた職人技の「ローテクノロジー」を融合させたもののづくりが強みだ。受注生産のためオートメーション化が難しく、製造過程では臨機応変な対応や職人の勘が多く求められる。近藤靖人社長は「近隣工場の技術者と協力し分業体制にすることで、短納期で高品質な仕事を達成できる」と話す。製品の取り付け作業や補修改造工事では、夜間など限られた時間で仕上げなければならないため、分野

ごとに高い技術力を持つ職人たちとの相互協力が欠かせないという。

地域
連携 コミュニケーションで
新たな仕事のチャンスをつかむ

各分野の職人たちと協力し、地域一丸となり仕事に取り組んでいる。自身で請け負った仕事に協力を仰ぐこともあれば、他の会社の仕事に応援に駆けつける機会も多い。「たとえ利益に結びつかない依頼でも、応援に行けば情報を得られたり、次の仕事の受注につながることも多い」と近藤社長は現場での交流を重視する。「昼休みなどの自由時間で、携帯電話に目を落とすことはもってのほかで、リラックスした雰囲気の中で交わされる他愛ない会話の中に、貴重な情報が多く潜んでいる」と、チャンスを掴むためのアンテナを常に張っている。

今後の
展望 2020年を目標に
新工場を建設

職人の技術力と地域との連携で、顧客からの高い要求に応じてきた。だが、受注できる仕事量には限りがある。ひとつの仕事を請け負っていただければ、他の依頼を同時に受けることはできない。近藤社長は2020年をめどに工場を新設し、受注できる仕事量拡大を目指す。新工場は、現工場の隣の敷地に建設する予定。工場を拡大するにあたり、人材の確保と育成が課題となる。従業員が業務上必要とする免許や資格の取得も会社で後押しするなど、職人の技術向上には出資を惜しまないという。人とのつながりやチームワークを重視し、将来の発展につなげていく。

COMPANY PROFILE

株式会社近藤溶工

大阪
27当社の
歴史

昭和40年の創業以来培ってきた技術で、各種製缶加工やプラント関連の金物製品、設置補修工事などを手がけています。最新鋭の装置やコンピューターではカバーできない微細な加工を、職人の手で仕上げる高レベルな「ローテクノロジー」を武器に、他社との差別化を図っています。

創業以来受け継がれてきた職人技を生かし、高難度のものづくりに妥協せず挑戦しています。

代表取締役 近藤 靖人さん



■主な事業内容

工業炉関連製缶加工・
プラント関連付帯金物
製作、据付・改造補修工事

■主な取引先（納入先）

工業炉メーカー、焼却炉
メーカー、鍍金プラント
メーカー、電力メーカー、
アルミニウム二次合金
メーカーなど

住 所／〒544-0012
大阪市生野区
巽西4-10-20
T E L／06-6757-8684
F A X／06-6757-8694
創 業／昭和40年5月
設 立／平成26年4月
資本金／800万円
従業員／3名

<http://kondo-yk.com/>